



校長室の窓

令和8年8月24日

学校だより第5号より

～夏休み、先生たちも学んでいます～

夏休みは先生方にとって、学校をもっとよくするために学ぶ大切な期間でもあります。

8月20日、令和10年度からの学校再編を見据え、気仙沼・新月中学区の小中6校の先生方が集まり、「子供が輝く学校づくり」について学びました。学校で子供が輝いていた場面を振り返り、そうした姿を増やす方法を話し合いました。学校や年代の違いを越えて、先生方は熱心に話し合いました。講師は、先生方が本気で考え、話し合う姿を見て、「子供が輝く学校は、偶然には生まれない」と高く評価してくださいました。

8月3日には、本吉地方の学校給食に関する研修会に校長と本校の養護担当が参加し、地元の酪農家の方からお話を伺いました。毎日給食に出る牛乳は当たり前になり、その背景にある牛の命や、牛乳ができるまでに掛かる時間と手間を意識しにくくなっています。講師はそのことを「透明になってしまった牛乳」と表現されました。研修では、各食材の背景に気付いてもらうために何ができるか、参加者が知恵を出し合いました。本校でも早速、今月の「ほけんだより」に、牛乳の背景にある命や酪農家の思いを伝える「牛乳ができるまで〇年かかる?!」という記事を載せました。

二つの研修には、それぞれの経験から、よりよい方法を本気で考え、次の行動につなげようとする先生たちの姿がありました。学校づくりも食育も、こうした汗をかく姿から始まるのだと思います。

月立小の先生方は、協議を通して、子供たちが「互いに認め合える関係」こそ大切だと結論づけました。その土台となるのは、先生、保護者、地域の方など、子供に関わる大人が、子供たちの姿や願いを共有し、それぞれの立場でできることを重ねていくことです。

学校・家庭・地域のつながりが、子供たちの輝きを支える力になります。これからも、子供を真ん中に置き、保護者や地域の皆様とともに、月立の子供たちの学びと育ちを支えていきたいと思っています。